

令和2年度 事業報告

I 運動推進事業

1 海洋・海事思想の普及

(1) 美ら海体験教室事業

一般財団法人近藤記念海事財団との共催により、7月18日(土)及び19日(日)に沖縄県宜野湾市においてサンゴ移植体験等の海洋環境学習とマリンスポーツを体験する「第13回美ら海体験教室」を計画し準備を進めていたが、開催直前に在沖縄米軍で新型コロナウイルス感染者が増加したことから7月10日中止を決定した。

(2) 我ら海の子展事業

一般財団法人サークルクラブ協会との共催により、船、海や船で働く人、海の環境保全や震災復興などをテーマにした絵画を全国の幼児・小・中学生から募集する「第48回我ら海の子展」を実施した。

優秀作品に対し国土交通大臣賞はじめ日本海洋少年団会長賞等を授与した。

例年盛大に開催している表彰式は新型コロナウイルスの影響により中止した。

作品は銀座ギャラリー、国土交通省、アクアマリンふくしま、琴平海洋博物館等にて展示を行った。

なお、募集期間が1回目の緊急事態宣言期間と重なったこともあり、応募作品は前年の1/3の3,800点余りであった。

(3) 褒状山縣賞授与事業

一般財団法人山縣記念財団の協力により、特に優秀な団員で卒団後も引き続き海洋少年団の指導に当たっている若手指導者を表彰する褒状山縣賞の令和元年度授与式(2年3月に予定しコロナ禍で延期)を7月31日開催した。

2年度については3月19日に褒状山縣賞の授与式、20日に海事研修を行う予定であったが、2回目の緊急事態宣言発令中であることから延期とした。今後、新型コロナウイルスの収束状況を見て授与式等を実施する予定。

2 海洋少年団運動の広報

(1) 例年「海の月間」に開催される「海フェスタ」始め全国各地での記念式典、みなとまつり等が新型コロナウイルスの影響で中止や縮小となったことで海洋少年団員が参加しての直接の広報活動は殆どできなかったが、海事広報協会が実施した『「#海ではたらく人へ」感謝のことばを伝えよう。』キャンペーンに複数の団がリモート参加しメッセージを発信した。また、神戸においては「海の日海事功労者等表彰式」に合わせ手旗でのメッセージを動画配信した。

(2) 2月24日から3月8日まで沖縄県が主催する「沖縄産業まつり「海洋産業パネル展」」にパネル展示を行い、海洋少年団活動のPRを行った。

(3) 機関紙「海っ子」を年5回(うち1回は合併号)発行して、各海洋少年団及び関係行政機関、関係団体、各地の図書館等に配布した。

- (4) 日本連盟のホームページを活用するほかFacebookを導入し、海洋少年団に関する情報をインターネットにより内外に発信した。
- (5) ポスター、パンフレット等を各海洋少年団、関係機関等に配布した。

3 海洋少年団運動の拡充／推進／強化・活性化

(1) 運動の拡充

- イ 日本海洋少年団連盟団会員の名簿管理を的確に行い、正確な団会員の現状把握に努めた。新団会員等に対して会員証221枚を発行した。
- ロ 新しく設立された目黒区海洋少年団の設立経費、新入団員の制服購入費等の一部を助成した。
- ハ 海洋少年団運動を支援するため、次の海洋活動器材等の整備を進めた。
 - (イ) 酒田団にカヌー4艇（一人乗り2艇2人乗り2艇）の配布とゴムボート費用を助成した。また、敦賀団にカヌー4艇（一人乗り1艇、二人乗り3艇）を配布した。
 - (ロ) カッターの修繕等として、以下の費用を助成した。
 - 南勢団、八戸団、四日市団：修繕費、藤沢団：架台、霞ヶ浦団：カッター2隻分の本格的修理、石垣団：カッター輸送費用
 - (ハ) 船橋団：車椅子で参加する団員のための車椅子に助成した。
 - (ニ) 横須賀団、あきた団、杉並団に救命胴衣を配布した。
- 二 損害賠償責任保険に加入し、海洋少年団活動の円滑な推進を図った。

(2) 運動の推進

- イ 地域貢献の核となる地区連盟の活動を支援するため、北海道地区連盟、東北地区連盟、関東地区連盟、東京地区連盟、中部地区連盟、九州北部地区連盟に助成した。
 - なお、各地で地区大会が計画されたが、コロナウイルスの影響で全て中止となった。
- ロ 指導体制を維持するため、指導者資格審査委員会を開催し、指導者23名を承認・登録した。
- ハ 団長会議、事務局長会議はコロナウイルスの感染を考慮して開催しなかった。
- ニ コロナウイルス対策として非接触型体温計を購入し各団に貸与した。

(3) 運動の強化・活性化

- イ 熊本県八代市における新団結成を支援するため、日本連盟職員、地区連盟関係者を派遣するとともに、関係行政機関と調整を図った。
- ロ 日本連盟主催による上級指導者養成研修
 - 11月28日、29日東京において、推薦のあった5名に対し上級指導者養成研修を実施した。
 - なお、当初は9名が参加予定であったが、直前になってコロナウイルスの影響で4名がキャンセルとなった。
- ハ 地区連盟主催による指導者養成研修
 - 関東、東京及び近畿地区連盟が指導者養成研修を実施した。
- ニ 活動活性化のためのチャレンジ事業を募集し、別紙のとおり助成した。

4 海洋環境教育・地域貢献の推進

(1) 環境教育事業

沖縄県の宜野湾はごろも団の「美ら海体験教室」は中止となったものの、全国の海洋少年団が定期的に海浜清掃等を行い、自然を大切にする心やエコの精神などの涵養を図った。

(2) 青い羽根募金活動

各海洋少年団が地域貢献活動として公益社団法人日本水難救済会の実施する「青い羽根」募金運動に協力した。

II 全国大会事業

令和4年8月に横浜において開催予定の第55回全国大会に向け役員会を設置した。2月24日第一回役員会（書面開催）を開催し、実行委員長の指名、実行委員会への業務委嘱等を行った。

3月28日第一回実行委員会（設立総会）が開催された。

III 国際交流事業

1 国際海洋少年団協会年次総会対応

11月、韓国において開催予定であった国際海洋少年団協会年次総会に国際委員長等を派遣予定であったが、コロナウイルスの影響により各国からレポートの提出での対応となり、活動レポートを送付した。

2 海外の海洋少年団員の派遣

カナダへ団員5名と指導者1名を派遣する予定で準備を進めていたが、コロナウイルスの影響でカナダ側が中止を決定し派遣は見送った。

IV 需品事業

日本海洋少年団連盟規約に基づく制服、制帽及び徽章類を作成して販売した。

2020年度チャレンジ事業一覧表

別紙

団	事業概要	金額	対象
千葉新宿 千葉北部	カヌー、クルーザー体験	96,500	団員外
東京地区連盟	海洋少年団PR、団員募集活動	300,000	団員外
宜野湾はごろも	海浜清掃及びカッター訓練	300,000	団員+団員外
熊本火の国	外国から来た子供達・子供会カヌー教室、 パラカヌー教室	42,718	団員外
南勢	耐寒訓練	19,570	団員+団員外
		758,788	